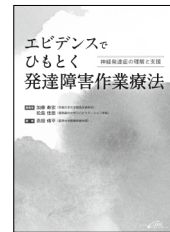


加藤 寿宏・松島 佳苗（編著），高畑 脩平（著）

エビデンスでひもとく発達障害作業療法 —神経発達症の理解と支援

中 村 春 基

（一般社団法人日本作業療法士協会，会長）



本書の全体構成は，4つの章からなり，Ⅰ章の「神経発達症群/神経発達障害群と作業療法」では，神経発達症群/神経発達障害群，神経発達症の作業療法において共通する観点について，神経発達の視点から説明をしている。本章は，Ⅱ～Ⅳ章の基盤となる知識であり，熟読いただきたい。

Ⅱ章の「自閉スペクトラム症の理解と作業療法」は，本書の約1/3のボリュームが割り当てられており，自閉スペクトラム症とは，自閉スペクトラム症と社会性，興味の限定と反復行動，運動機能，感覚処理，実行機能について述べている。

Ⅲ章の「注意欠如・多動症の理解と作業療法」では，注意欠如・多動症，脳内ネットワーク，triple pathway model，協調運動の障害，感覚処理障害について述べている。

Ⅳ章の「限局性学習症の理解と作業療法」では，限局性学習症，読字の発達と障害，読字と音韻処理障害仮説，読字と視覚関連機能

の障害仮説，読字の流暢性・自動化と小脳障害仮説，書字表出障害，書字，なぞり書きと模写について概説している。

加藤氏は序文で，「現代の科学をもってしても，発達障害についてわかっていることは，わずかである。そのため，作業療法の評価から治療すべてを，エビデンスに基づき説明することは不可能である。しかし，作業療法が治療である以上，自分が行っている作業療法のより多くをエビデンスに基づき説明できるよう努力し続けなければならない」と述べているが，本書の内容はまさに，脳神経学的な知見に基づく実践と説明の基礎を提供してくれる。

おそらく，多くのOTが初めて接する知見が多いと思う。しかしながら，ここに書かれている内容は，基本的な知識として認識していただき，かたわらに，最新の脳科学の成書を置きながらお読みいただければ，さらに，著者らの意図が伝わると思う。

また，本書は巷のマニュアル本

と一線を画している。実直に最新の文献を読み解き，必要以上に図式化することなく，言葉を丁寧に紡ぎ「エビデンスでひもとく」のメッセージが細部にちりばめられている。結果として，発達障害の作業療法の語りが変わると確信している。加えて，本書は「エビデンスでひもとく発達障害作業療法—神経発達症の理解と支援」について書かれているが，実は，人の行動を理解するための多くのヒントが紹介されている。したがって，領域に関係なく，作業療法に従事するすべての人にお読みいただき，最新の知識に基づく，作業療法の実践が推進されることを祈念している。最後に，著者らのさらなる活躍と，本書の第二弾が上梓されることを願っている。

B5判 184頁 3,200円+税
シービーアール刊
☎ 03-5840-7561